

インディアナ大学

スラヴ語・文学科——ロシア語・文学系

1999～2000 年度秋期セメスター

(1999年8月25日～1999年12月17日)

鈴木 淳 一

前回はインディアナ大学ブルーミントン校ロシア・東ヨーロッパ・中央アジア夏期集中講座についてロシア語プログラムを中心に報告方々紹介したが¹、今回は同校のスラヴ語・文学科、ロシア語・文学系について、1999～2000年度秋期セメスターの授業を中心に同様の報告・紹介を試みてみることにしたい。なおこの大学は秋期セメスター（9～12月）、春期セメスター（1～5月）、夏期セメスター（6～8月）の3セメスター制である。もともと夏期セメスターは集中講義方式で、他の2セメスターとは肌合いが違っているが。

1. スラヴ語・文学科概要とその教員構成

インディアナ大学ブルーミントン校のスラヴ語・文学科 (Slavic Languages and Literatures) は、5つの系に大別されている。ロシア語・文学系 (Russian)、チェコ・スロバキア語・文学 (Czech and Slovak)、ポーランド語・文学系 (Polish)、ルーマニア語・文学系 (Romanian)、セルビア・クロアチア語・文学系 (South Slavic) の5つである。

1 『1999年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座』（札幌大学外国語学部紀要「文化と言語」No.51、1999年10月、pp.311～389）参照。

5つの系の教員数は1999年秋現在以下の通りである。

①ロシア語・文学系	教授 2 / 準教授 4 / 助教授 2 / 講師 1
②チェコ・スロバキア語・文学系	教授 1 / 準教授 0 / 助教授 0 / 講師 0
③ポーランド語・文学系	教授 1 / 準教授 0 / 助教授 0 / 講師 0
④ルーマニア語・文学系	教授 0 / 準教授 0 / 助教授 1 / 講師 0
⑤セルビア・クロアチア語・文学系	教授 1 / 準教授 0 / 助教授 0 / 講師 0

ただしポーランド語・文学系ではインディアナ大学付設のポーランド研究センター助教授が1名、チェコ・スロバキア語・文学系、ルーマニア語・文学系、セルビア・クロアチア語・文学系では招聘教員が各1名ずつ配属されており、ロシア語・文学系以外は常時2名体制を取るようになっていると思われる。

もちろん上述したのは正規、あるいは準正規の教員についてであって、実際の授業運営にあたっては、さらに数名の非常勤講師（大学院生および退職教員）を数え上げなければならない。たとえば1999年秋期にはロシア語・文学系4名、ポーランド語・文学系2名、セルビア・クロアチア語・文学系1名の大学院生が、非常勤講師として登録されている。

2. スラヴ語・文学科カリキュラム概要

カリキュラムもまたもちろん5つの系に大別されるが、それ以外にスラヴ言語学 (Slavic Linguistics) と一般スラヴ学 (General Slavic) と銘打たれた科目群が加えられている。以下に1999～2000年秋期 Semester 全学授業スケジュールから抜粋し、対象学年、単位数、授業1コマの分数 (50分と75分の2種類)、1週毎の授業コマ数 (1～5回)、クラス数、科目名の順に列挙してみよう。科目名は翻訳が煩わしいので原語のままとする。

①ロシア語・文学系

1 学年	4 単位	50 分	5 回	3 クラス	Elementary Russian I
	4 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Russian II
	1 単位	50 分	1 回	3 クラス	Elementary Oral Russian I
	1 単位	50 分	1 回	1 クラス	Elementary Oral Russian II
2 学年	3 単位	50 分	4 回	2 クラス	Intermediate Russian I
	3 単位	50 分	4 回	1 クラス	Intermediate Russian II
	2 単位	50 分	2 回	1 クラス	Intermediate Oral Russian I
	2 単位	50 分	2 回	1 クラス	Intermediate Oral Russian II
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Pushkin to Dostoevsky(*)
3 学年	3 単位	50 分	4 回	1 クラス	Advanced Intermediate Russian I
	3 単位	50 分	4 回	1 クラス	Advanced Intermediate Russian II
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Tolstoi and Dostoevsky(*)
4 学年	3 単位	50 分	4 回	1 クラス	Advanced Russian I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Readings in Russian Literature I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Readings in Russian Culture, History and Society I
	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Political Russian(*)
	4 単位	50 分	3 回	1 クラス	Russian for Graduate Students I
大学院	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Russian for Graduate Students I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Proseminar in Russian Literature(*)
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	18 th Century Russian Literature(*)
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	19 th Century Russian Literature I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Tolstoi and Dostoevsky(*)
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Russian Drama(*)
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Pushkin to Dostoevsky(*)
	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Political Russian(*)

(注記 1：科目名が同じものは合併科目である)

(注記2：科目名に「I」と「II」があるものは原則的に双方ともに毎セメスタ一開講)

(注記3：科目名に「I」とあるものは原則的に「II」と隔セメスタ一開講)

(注記4：(*)印の科目は原則的に「注記5」の科目と隔セメスタ一開講)

(注記5：本セメスタ一で開講されていない主な科目は以下の通り —

2 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Introduction to Russian Culture
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Tolstoi to Solzhenitsyn
3 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Central European Cinema
4 学年	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Russian Phonetics
	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Business Russian
大学院	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Central European Cinema
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Tolstoi to Solzhenitsyn
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Business Russian
	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Method of Russian Language Instruction

②チェコ・スロバキア語・文学系

1 学年	4 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Czech I
2 学年	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Intermediate Czech I
大学院	3 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Czech I
	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Intermediate Czech I
	3 単位	50 分	3 回	1 クラス	Advanced Czech I

(注記1：科目名が同じものは合併科目である)

(注記2：次回セメスタ一では科目名の「I」がすべて「II」になる)

(注記3：セメスタ一毎に科目の出入りが多少ある)

③ポーランド語・文学系

1 学年	4 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Polish I
------	------	------	-----	-------	---------------------

IU ロシア語・文学系 1999～2000 年度秋期セメスター (鈴木淳一)

2 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Intermediate Polish I
3 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Advanced Intermediate Polish I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Survey of Polish Literature and Culture I
大学院	3 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Polish I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Intermediate Polish I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Advanced Intermediate Polish I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Survey of Polish Literature and Culture I

(注記 1：科目名が同じものは合併科目である)

(注記 2：次回セメスターでは科目名の「I」がすべて「II」になる)

(注記 3：セメスター毎に科目の出入りが多少ある)

④ルーマニア語・文学系

1 学年	4 単位	120 分	2 回	1 クラス	Elementary Romanian I
2 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Intermediate Romanian I
大学院	3 単位	120 分	2 回	1 クラス	Elementary Romanian I
	3 単位	120 分	2 回	1 クラス	Intermediate Romanian I
	(すべて申し合わせ)				Intermediate Readings in Romanian Language and Literature

(注記 1：科目名が同じものは合併科目である)

(注記 2：次回セメスターでは科目名の「I」がすべて「II」になる)

(注記 3：セメスター毎に科目の出入りが多少ある)

(注記 4：「申し合わせ」とは、教師と受講希望学生の話し合いによる決定を示す)

⑤セルビア・クロアチア語・文学系

1 学年	4 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Serbian and Croatian I
------	------	------	-----	-------	-----------------------------------

CULTURE AND LANGUAGE, No. 52

2 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Intermediate Serbian and Croatian I
3 学年	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Literature and Culture of Southern Slavs I
大学院	3 単位	50 分	5 回	1 クラス	Elementary Serbian and Croatian I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Intermediate Serbian and Croatian I
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Literature and Culture of Southern Slavs I

(注記1：科目名が同じものは合併科目である)

(注記2：次回セメスターでは科目名の「I」がすべて「II」になる)

(注記3：セメスター毎に科目の出入りが多少ある)

⑥スラヴ言語学

大学院	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Structure of Russian I: Phonetics and Morphology
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Comparative Slavic
	3 単位	75 分	2 回	1 クラス	Prague School Linguistics and Poetics

(注記1：“Structure of Russian I: Phonetics and Morphology”と“Structure of Russian II: Syntax and Semantics”は隔セメスター開講科目)

(注記2：セメスター毎に科目の出入りが多少ある)

⑦一般スラヴ学

4 学年	1~3 単位 (以下申し合わせ)	Supervised Individual Reading
	1~6 単位 (以下申し合わせ)	Senior Honors Seminar
大学院	(すべて申し合わせ)	Graduate Readings in Slavic Studies
	(すべて申し合わせ)	Ph.D. Dissertation
	6 単位 (以下申し合わせ)	Advanced Research

(注記1：科目名が同じものは合併科目である)

(注記2：「申し合わせ」とは、教師と受講希望学生の話し合いによる決定を示

す）

各教員の担当授業数はとくに一定していないようであるが、語学教育中心（50分授業）の場合には1週間に8～12コマ、講義中心（75分授業）の場合には1週間に6～8コマ、語学と講義が組合わさった場合には8～10コマというのが大体の目安と考えられる。

3. ロシア語・文学系の授業

ここでは筆者の専門であるロシア語・文学系の授業に焦点を絞って、もう少し詳しく見てみることにしよう。

前項で紹介した科目毎に、①クラスと受講者数、②教科書、③シラバス（授業計画）という順に、あれば④その他に若干の意見、所感なども交えながら、記述してゆこう。各事項に記述の濃淡があるのは御容赦願いたい。

【1 学年】

〈Elementary Russian I〉 4単位／50分／週5回

①クラスと受講者数

3クラスで受講者はそれぞれ6人、15人、16人。人数に差があるのは、授業設定時間帯によると思われる。

②教科書

ACTR. *Russian Stage One. Vol. I.* (Kendall / Hunt Publishing Company)

ACTR とはアメリカロシア語教師連盟 (American Council of Teachers of Russian) の略称である。この教科書は「序」+本編7章立てで、50分授業68回が見込まれている。この科目の1セメスターにおける授業回数はおおよそ75回（5回×15週）だから、適量の教科書と考えられる。アメリカ外国語教育連盟 (ACTFL=American Council on the Teaching of Foreign Languages) のガイドライン (ACTFL Russian Proficiency Guideline) によれば、この教科書は3段階に分かれた「初級 (Novice)」の下～中にあたっており²、この

教科書の後半“*Vol. 2*”（8～14章の全7章立て）と合わせて「初級」が終了する形になっている。教科書は以下の4つから成り立っている。

1. Textbook 1 (Introductory Unit and Units 1-7 / pp. 505)
2. Workbook 1 (Homework Exercises to accompany Textbook 1 / pp. 270)
3. Audio Tape 1 (Interactive Audio and Drills)
4. Video Tape 1 (Video Program, Units 1-7)

③シラバス

上述の教科書には教師用マニュアルが完備しており、授業はすべてそれに基づいて行われている。なおマニュアルは“*Vol. 1*”と“*Vol. 2*”を合わせたものになっていて（したがって「序」から14課までをカバーしている）、その中身は以下の通りである。

1. Instructor's Manual (Introductory Unit and Units 1-14, Tests, Video Script, Learning Strategies commentary)
2. Institutional Audio Tapes (Introductory Lesson 1-14)
3. CD ROM (Interactive Drills 1-14)

④その他

ちなみに1学年用の（初学者用の）4科目、すなわち“Elementary Russian I & II”と“Elementary Oral Russian I & II”は、単位や奨学金との絡みもあって、大学院生が担当することになっているようである。

〈Elementary Russian II〉 4単位／50分／週5回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者は11人。

2 ACTFLガイドラインの詳細については『1999年度インディアナ大学スラヴ・東ヨーロッパ・中央アジア夏期語学集中講座』（札幌大学紀要「文化と言語」No.51、1999年10月、pp. 311～389）の付録参照。

②教科書

ACTR. *Russian Stage One. Vol. II.* (Kendall / Hunt Publishing Company)

これは前項で説明したように“Elementary Russian I”の教科書の後半部にあたり、3段階に分かれた「初級」の中～上のレベルに相当する。全7章立てで50分授業59回が見込まれているから、復習分を考慮すれば、これもこの科目の授業分量（5回×15週=75回）にマッチしていると言えよう。この教科書の構成は以下の通り。

1. Textbook 2 (Units 8-14 / pp. 436)
2. Workbook 2 (Homework Exercises to accompany Textbook 2 / pp. 268)
3. Audio Tape 2 (Interactive Audio and Drills)
4. Video Tapes 2 (Video Program, Units 8-14)

③シラバス

“Elementary Russian I”のシラバスの項参照のこと。

<Elementary Oral Russian I> 1単位／50分／週1回

①クラスと受講者数

3クラスの予定であったが、受講希望者少なく1クラスだけ開講。受講者数は4人。

②教科書

“Elementary Russian I”に準じる。この科目は“Elementary Russian I”の会話部分を補足し、文法は二の次、もっぱら「聞いて話す」能力の向上を目指している。

③シラバス

“Elementary Russian I”に準じる。

〈Elementary Oral Russian II〉 1 単位／50 分／週 1 回

①クラスと受講者数

1 クラスで受講者は 4 人。

②教科書

“Elementary Russian II”に準じる。

③シラバス

“Elementary Russian II”に準じる。

【 2 学年】

〈Intermediate Russian I〉 2 単位／50 分／4 回

①クラスと受講者数

2 クラスで受講者はそれぞれ 9 人、13 人。

②教科書

1. O. Kagan, F. Miller. *V Puti. Russian Grammar in Context*. (Prentice Hall / pp. 400)

2. O. Kagan, F. Miller. *V Puti. Lab Manual & Workbook with Readings* (Prentice Hall / pp. 270)

今年から新たに採用されたというこの教科書(1)は全 12 章立て、1 章につき 50 分授業が 10～12 回見込まれているので、すべて終了するには 50 分授業が 120～144 回必要とされる。したがって、この科目の 1 セメスターの授業数が 60 回であることを考えるなら (4 回×15 週)、ここで 1～6 章を担当し、残り 7～12 章は“Intermediate Russian II”が担当すれば、時間的にはぴったりという計算が成り立つ。ACTFL ガイドラインでいえば、3 段階に別れた「中級」の下～中ぐらいに相当する教科書である。なお教科書(2)はもっぱら自宅学習のものである。

③シラバス

初回の授業で何月何日の授業では教科書のどこを学び、ポイントは何かとか、大小のテストに関する予告とか、宿題とか、詳細なシラバスが配られた

が、ここでは参考例として概要部分だけを抜粋して掲載しておこう。

“Intermediate Russian I” is intended as a review and continuation of first-year Russian, with particular emphasis on understanding the grammar and developing proficiency in reading and writing Russian. Basic phonetics and intonation will also be presented and practiced. Russian will be spoken in the classroom as much as possible, but all explanations will be done in English.

It is strongly recommended that all students of “Intermediate Russian I” also enroll in “Intermediate Oral Russian I”, where the emphasis is on conversational practice.

The textbook used in “Intermediate Russian I” is “V Puti”, by Kagan and Miller. The first six chapters will be covered. Quizzes are given regularly. Re-testing is done on any topic if the instructor deems it expedient. There are no “pop” quizzes and no cumulative exams. Hour exams are given at the end of each two chapters of “V Puti”. Test scores count for 75% of the final grammar grade. Class participation and attendance count for the remaining 25%.

Attendance in any language course is very important; any absences put the student at a disadvantage and are discouraged. Any more than two unexcused absences (an excused absence is one with a doctor’s written excuse or with advance permission of the instructor) will result in an automatic lowering of the final grade by one-half letter grade for every two absences. Being more than fifteen minutes late for class counts as an absence.

Tests must be taken on the day designated by the instructor. If an emergency situation makes it impossible for you to take a test, it is your responsibility to notify the instructor (not a secretary!) that same day — or earlier, if possible — to arrange a make-up time.

Students are further strongly encouraged to attend “Russian Tea” regularly. This is an informal gathering every Tuesday from 4 to 5 PM in BH004 affording you a unique opportunity to speak Russian with fellow students and faculty members. Tea and refreshments are served.

(“Russian Tea”は大学院生、教師を囲んでロシア語だけで過ごす時間であるが、もちろんロシア事情的な情報提供の場ともなっている。BH004とはスラヴ語・文学科の建物の学生談話室のような部屋である。なおこうした「茶話会」はロシア語だけではなく、他の言語にもある³⁾)

④その他

新しい教科書については、非常に使い辛いというのが現在担当している教官評である。

これまでは“Elementary Russian I, II”の教科書“*Russian Stage One. Vol. 1, Vol. 2*”と有機的な繋がりを持った同じ ACTR 編集の教科書“*Russian Stage Two*”を“Intermediate Russian II”と折半する形で使っていたとのことであるが、慣れもあるにしろ、そちらの方が遥かに教え易いし、学び易いと思うということであった。ちなみに ACTFL ガイドラインで3段階に分かれた「中級」の下～中のレベルに相当する“*Russian Stage two*”は全10課（つまり“Intermediate Russian I”は1～5を、“Intermediate Russian II”は6～10課を担当していたことになる）、1課につき50分授業13～14回見込まれており、その構成は以下の通りである。

3 REEI (ロシア・東欧研究所) の最新情報 (email&website) によれば、2000年2月始め段階での語学「茶話会」は、以下の通り—

- ①ロシア語—毎週火曜日、4：00 p.m.～
 - ②ハンガリー語—毎週日曜日、5：00 p.m.～
 - ③ポーランド語—毎週木曜日、7：00 p.m.～
 - ④エストニア語—毎週金曜日、4：00～5：00 p.m.
 - ⑤ラトビア語—毎週金曜日、5：00 p.m.～
 - ⑥フィンランド語—毎週金曜日、6：00 p.m.～
 - ⑦セルビア・クロアチア語—現在休止中で4月再開予定
- 場所は様々で、構内の談話室やら教室、喫茶室から構外の喫茶店、レストランにまで及んでいる。もちろんすべて連絡先の e-mail アドレスが付記されており、いつでも茶話会の責任者（主に教員）にアクセスできるようになっている。

IU ロシア語・文学系 1999～2000 年度秋期セメスター（鈴木淳一）

1. Textbook (Urok 1-10 / pp. 422)
2. Workbook (Urok 1-10 / pp. 148)
3. Supplemental Grammar Keys: Dialogue Guide (Oral Practices 1-10: Writing Practices 1-10 / pp. 127)
4. Grammar for Communication: Analysis and Commentaries (Urok 1-10 / pp. 148)
5. Video Tape (Urok 1-10)
6. Audio Tape (Urok 1-10)

〈Intermediate Russian II〉 3 単位／50 分／4 回

①クラスと受講者数

受講者希望者少なく開講されず。

②教科書

“*Russian Stage Two*”を使用予定だったとのこと。この教科書の詳細は“*Intermediate Russian I*”の項④その他を参照のこと。

③シラバス

教科書の指示通りの授業展開で、6～10 課を消化予定だったとのこと。この科目の授業数は 4 回×15 週=60 回であり、教科書 1 課に必要とされる授業数は 13～14 回とされているから、大体 3 週間に 1 課こなしてゆくことになったであろう。“*Intermediate Oral Russian II*”の援護も考慮すれば、予定は十分にこなされる勘定である。

〈Intermediate Oral Russian I〉 2 単位／50 分／週 2 回

①クラスと受講者数

1 クラスで受講者は 5 人。

②教科書

1. O. Kagan, F. Miller. *V Puti. Russian Grammar in Context*. (Prentice Hall / pp. 400)

2. O. Kagan, F. Millaer. *V Puti. Lab Manual & Workbook with Readings*
(Prentice Hall / pp. 270)

この科目は“Intermediate Russian I”とペアになっているので、当然同じ教科書を使用している。“Intermediate Russian I”のシラバスにもあったように、「聞く・話す」の面から“Intermediate Russian I”を援護している科目とみなして差し支えないだろう。

③シラバス

さきに“Intermediate Russian I”のシラバスを紹介したように、ここでも概略を示したシラバスを抜粋し、原語のまま再録することにしよう。

(1) Course Description

This course aims at enhancing students' communicative ability. In particular, main emphasis will be out on speaking. All the topics and class conversation will be consistent with what students learn in grammar class (“Intermediate Russian I”). Students are always strongly encouraged to use as many expressions as possible within the bounds of the Russian they have learned.

(2) Textbook and Materials

The primary material is the textbook, “V Puti”. There will be additional materials to enhance the language studies and to give students cultural background, such as Russian cartoons, video clips, Russian songs, etc.

(3) Homework assignments, Midterm Exam, Final Exam

Students will be expected to memorize some excerpts of conversation materials and read them by heart in the next class. Midterm exam is tentatively scheduled on October 14. A comprehensive Final exam will cover all the topics discussed earlier in class.

(4) Grading Policy

Assessment of students' performance is based on the following activ-

ities and distributions. This is not curved:

- regular classroom attendance: 30% (more than 4 absence of classes, one grade down)
- class participation (homework assignment included): 30%
- midterm exam: 20%
- final exam: 20%

④その他

この科目担当教員も今期から新たに採用された教科書ということで、やや戸惑いを隠せない様子だった。以前の教科書については、“Intermediate Russian I”の④その他の項参照のこと。

〈Intermediate Oral Russian II〉 2単位／50分／週2回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者2人。

②教科書

ACTR. *Russian Stage Two*. (Kendall / Hunt Publishing Company)

“Intermediate Russian II”とペアーをなす科目なので、同じ教科書が使用されている。

③シラバス

“Intermediate Russian II”の③シラバスの項参照のこと。

④その他

休講にされてもしかたのない受講者数であるが、担当教員が大学院生のためか開講されている。

〈Pushkin to Dostoevsky〉 3単位／75分／週2回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者は28人。

②教科書

1. Dostoevsky. *Crime & Punishment* (A Norton Critical Edition)
2. C.R. Proffer. *From Karamzin to Bunin* (Indiana U.P.)
3. Tolstoy. *The Keutzer Sonata & Other Stories* (Oxford U.P.)
4. Tourgenyev. *Fathers and Sons* (A Norton Critical Edition)

この他に入手し難い文献についてはプリント配布される旨と、さらに参考文献として文学史や文学理論に関する著作が10点、文学レポートの書き方に関する著作が3点ほど推薦されている。

③シラバス

ここでも概要を示すものを原語のまま再録しておこう。

1. Course description

The course covers Russian literature from the beginning of the 19th century to the end of the mid 70's. The lectures will trace development of various literary schools from Sentimentalism to Realism. Works of each author will be discussed in the context of the major historic and cultural events of the period. Lectures will include close textual analysis of individual works. Discussions will include such topics as: images and character of the city of St. Petersburg in Russian literature and culture, heroes heroines in Russian literature, ethical, social and philosophical raised by the authors in their literary works and so on.

2. Course objective and Structure

The course aims at helping students learn the major events of the literary and intellectual history of the 19th century Russia, to familiarize themselves with the method of close textual analysis, to learn how to discuss various aspects of literature. There will be two classes per week. Although this is lecture course some discussion sections will be incorporated as well.

3. Exams and Assignments

Written assignments:

- a) Papers — Students enrolled in intensive writing course will write 3 papers (4-5, 5-6 and 6-7 pages long) during the semester. All others will write 2 papers (5-6 and 6-7 pages respectively). Graduate students will write one paper, 15-20 pages long.
- b) Quizzes — There will be 3 in-class quizzes, about a half an hour, based on the material covered in class.

4. Grading Policy

Grades will be calculated on the bases of both writing assignments as well as in-class quizzes:

- a) for intensive writing course: first paper - 15%, second - 25%, third - 30%
- b) for all others: first paper - 30%, second - 40%
- c) for graduate students: final paper - 70%
- d) quizzes - 10% each

Attendance and participation in discussions will affect the final grade.

これ以外にももちろん各授業毎のシラバスや授業ポイント説明なども配布されている。

④その他

2 年次生から大学院生まで対象が幅広く、人数が多く、学力もまちまちなのが難点とは担当教官の弁。

【3 学年】

〈Advanced Intermediate Russian I〉 3 単位／50 分／週 4 回

①クラスと受講者数

1 クラスで受講者 16 人。この科目は週に授業が 4 回、3 単位のはずであるが、この科目を引き継ぐ“Advanced Intermediate Russian II”が受講希望者少なく休講となったせいか、週の授業が 60 分 5 回の 4 単位の科目に編成し直さ

れ、文法中心授業週3回、会話中心授業週2回、2人の教員によって共同担当されることになった。

②教科書

1. S.F. Rosengrant, E.D. Lifschitz. *Focus on Russia. An introduction Approach to Communication. Second Edition* (John Wiley & Sons, Inc. / pp. 370)
2. C. Gribble. *Russian Root List*. (Slavica Publishers / pp. 62)

教科書(1)は全12章立て、1章平均25ページ前後。ACTFLレベル別ガイドラインの3段階に分かれた「中級」の上(1~9章)から2段階に分かれた「上級」の下(10~12章)ぐらいに合わせて編集されている。「読む・書く・聞く・話す」を凝縮させた教科書で、もしも会話に力を入れるとすれば、1週に1章の割合、つまり60分授業5回(文法3回、会話2回)で1章を終えるペースでちょうどよいと思われる。また教科書(2)は参考書的に随時使用するものである。

③シラバス

文法中心授業のシラバス概要は次の通り。

The “Advanced Intermediate Russian I” is intended as a systematic and thorough review of Russian grammar. Russian is spoken in class as much as possible, with the exception of explanations of grammar, which are done in English. All of the following are covered.

- a) The FOCUS textbook, Lesson 1-5.
- b) Russian Root List.

Quizzes on all the above areas are given regularly. Re-testing is done on any topic if the instructor deems it expedient. There are no “pop” quizzes and no cumulative exams. Hour exams are given at the end of each two chapters of FOCUS. Test scores count for 75% of the final grammar grade. Class participation and attendance count for the remaining 25%.

The final grade given by <***> for the grammar part of the course will constitute half of the final course grade. The other half will be decided by <***>, who teaches the oral-aural sections of the course. The final grade will be an averaging of the two grades.

(以下“Intermediate Russian I”の④シラバスの項で紹介したものと同一なので割愛)

会話の方については評価基準の項目だけ抜粋しておこう。

1. Посещаемость и работа в классе: 25%
2. Видео – экзамен: 20%
3. Работа с песнями: 10%
4. Работа с фильмами: 10%
5. Словарная работа: 10%
6. Письменные домашние задания: 13%
7. Чтение и аудирование: 12%

授業に関する詳細なシラバスを見ると、文法の授業と同じ教科書を使いながらも、独自に歌を覚えさせたり、映画の感想を書かせた上で発表させ、議論させたりと、教科書以外の教材が盛り沢山、宿題も盛り沢山である。

④その他

「申し合わせ」による授業があったり、受講者数によって自由に科目を組み換えたり、教員1人あたりの生徒数が少ないがゆえの融通無碍かと思われた。

<Advanced Intermediate Russian II> 3単位/50分/週4回

①クラスと受講者数

受講希望者が少なく開講されず。

②教科書

“Advanced Intermediate Russian I”の項参照のこと。

③シラバス

“Advanced Intermediate Russian I”の項参照のこと。ただし開講されてい

れば、授業時間数から考えて、“Advanced Intermediate Russian I”では1～4章が、“Advanced Intermediate Russian II”では5～8章が守備範囲となったと思われる。

〈Tolstoi and Dostoevsky〉 3単位／75分／週2回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者は11人。

②教科書

1. Dostoevsky. *Poor Folk & Other Stories*. (Penguin Classic)
2. *Double*. (Dover Publications, Inc.)
3. *House of The Dead*. (Penguin Classic)
4. *Notes from Underground & Other*. (A Signet Classic)
5. *The Idiot*. (A Bantam Classic)
6. *The Brothers Kramazov*. (Penguin Classic)
7. Tolstoy. *Childhood, Boyhood, Youth*. (Penguin Classic)
8. *The Sebastopol Sketches*. (Penguin Clasiic)
9. *Great Short Works of Leo Tolstoy*. (Perennial Library)
10. *Tolstoy's Short Fiction*. (A Nortpn Critical Edition)
11. *War and Peace*. (A Norton Critical Edition)

③シラバス

評価基準として、2回のレポート、中間と最終2回のテスト、1作品毎の簡単な感想ノートを、それぞれ20%の割合で計算するとしている（ただし大学院生は担当教官とレポートについての打ち合わせが必要とある）。2回のレポートとテストは課題、期日、場所が決まっているが、授業で扱われた作品についてのいわば日記代わりのような簡単な感想文は、指示があるたびに提出しなければならない（Eメールでも可）。最初の4週の予定をここに掲載してみよう。

第1週目 Introduction: Historical Background. Brief biographies of

Tolstoi & Dostoevsky.

第2週目 Literary Debuts. Readings: Dostoevsky. *Poor Folk*. Tolstoi. *Childhood*.

第3週目 Petersburg. Dreamers & Madman.

Readings: Dostoevsky. *The Double & White Nights*.

第4週目 The Real Face of War (I). Reading: Tolstoi. *Sebastopol Sketches*. Guest Lectures

(ちなみに第4週目のゲスト講義は、他学科のロシア美術専門家による「絵画に見る19世紀ロシアの風俗」という演題のものであった。講演者は美術関係学科の教授で、本セメスターは自学科で「ロシア美術史」という科目を開講していた)

④その他

つまらない感想を1つ。膨大な教科書量でまともに買うと300ドル近くするが、そこは上手くしたもので、大学構内の本屋で新本と一緒に古本がたくさん売られているし、また古本を適当な値段で引き取ってもらえるのである。授業で要求される書籍類が多いこともあろうが、この教科書流通システムにはいささか感心した次第である。もちろん、大学院との共通科目ということもあろうが、ドストエフスキーとトルストイの主要作品を14週で読み切るというハード日程にも結構感心したのであるが……

【4 学年】

〈Advanced Russian I〉 3 単位／50 分／週 4 回

①クラスと受講者数

1 クラスで受講者は7人。

②教科書

1. F.J. Miller. *Reading and Speaking about Russian Newspapers*. (Focus Publishing)
2. F.J. Miller. *Workbook for reading and Speaking about Russian News-*

papers. (Focus Publishing)

これは ACTFL ガイドラインのほぼ「上級」に相当する教科書である。全 20 課で、1 課につき 50 分授業 3 回ぐらいが妥当なところかと思われる。したがって 50 分授業が週に 4 回あるこの科目では 15 週でちょうど 20 課が終了できることになる。しかし実際には授業に変化を持たせるためにその時々に応じた教材が導入され、教科書に割かれる時間は週に 2 回なので、「I」と「II」で 10 課ずつこなされることになっている。

③シラバス

ここではシラバスから概要を示す部分を抜粋して掲げておこう。

Classes on Monday and Tuesday are devoted to work on Frank Miller's "Reading and Speaking about Russian Newspapers and his "Workbook".

The class on Wednesday is devoted to work on developing listening comprehension and conversation based on Russian films, excerpts from news programs, commercials, music video, and other programs from Russian television. Our first feature film will be Adam's Rib.

Thursday will be reading day, with readings based on short literary selections, newspapers and magazines. If you would like me to include readings from your area of interest, please tell me. For most efficient use of class time, please prepare readings at home. If you have not prepared the assignment, please tell me before the beginning of class.

In addition to the work discussed above, each student will be asked to present one oral report during the semester and to write three compositions based on the materials covered above.

Attendance: Your attendance is required since much of the oral work will take place in class. Your grade will be lowered if you have more than 3 absences.

Grading: Homework and participation in class will constitute the single most important elements of your grade and will be based on your prepara-

tion of homework assignments, readings, grammar exercises from Miller, and the oral report. This will constitute 50% of your grade; quizzes and tests will count for 30%; compositions - 20%. Late homework will not be accepted unless you give me a reasonable explanation of why it is late.

(ここでもやはり通常の授業態度が重視されている。ちなみに1週目に早速「Adam's Rib」のシナリオとロシアの雑誌「Итоги」最新号の抜粋コピーが配布され、予習しておくようにという指示があった)

〈Readings in Russian Literature I〉 3単位/75分/週2回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者は7人（さらに3人のロシア人聴講生が常時出席）。

②教科書

1. G. Struve. *Russian Stories. A Dual Language Book. Русские Рассказы.* (Dover Publications, Inc.)
2. *Из Русской Художественной Прозы. Pages from Russian Fiction.* (Русский Язык)
3. Rosengarant, Lifschitz. *The Golden Age.* (John Wiley & Sons, Inc.)

19～20世紀のおもな短編を扱ったこれらの教科書は、当然「上級」に属するであろう。なお授業が文学作品の分析、議論ということで、最初の授業では文学作品を分析し、論じる際に必要な術語集が配られ、その説明が（もちろんロシア語で）行われていた。

③シラバス

“Readings in Russian Literature I”と“Readings in Russian Literature II”双方のシラバス概要を掲載しておこう。

“Readings in Russian Literature I & II” is a two semester course which covers 19th century Russian literature in part I and 20th century literature in part II.

Given limitations of time and desirability of representative sampling,

selection of material in both courses is restricted almost exclusively to the major practitioners of the Russian short story (Pushkin, Lermontov, Turgenyev, Tolstoy, Dostoevsky, Chekhov, Bunin, Gorky, Zoshchenko, Ilf and Petrov, Oresha, Zamyatin, Babel, Bulgakov, Nabokov, Aksenov, Solzhenitsyn). For variety (linguistic and cultural), “Readings in Russian Literature I” includes a fairy tale or two and “Readings in Russian Literature II” — a movie script and video. Occasional videos on major writers are shown and discussed and, if there is student interest, a few poems are read and analyzed (Pushkin, Blok, Akhmatova, Mandelshtam, Voznesensky, Evtushenko). Class is conducted in Russian.

“Readings in Russian Literature I” begins with a brief introduction to Russian literary terminology. In “Readings in Russian Literature II” two short critical articles are read to expose students to the terminology of Russian literary criticism. In both courses whenever possible (80% in “Readings in Russian Literature I”; about 45% in “Readings in Russian Literature II”), dual language texts (facing-page) are provided as a time saving device. The focus in both courses is not on translation, but re-telling and literary analysis.

Basically, the courses cover and complement aspects not emphasized in “Advanced Russian I & II”, that is, those of self-expression: speaking and writing. To this end, students are asked throughout the course to retell short stories in class and to write out a brief summary of each reading assignment. At the end of each reading selection students write a composition about the theme. Towards the end of the course, as students gain in proficiency, retelling is de-emphasized in favor of broader ranging discussion and the writing of summaries is abandoned entirely. On the other hand, in the second part of the course students are asked to give two brief oral reports. The audience is encouraged to ask questions.

The goal of the course is to develop a keener awareness of literary texts, to develop the ability to organize verbal material, and to increase self-expression in Russian.

Grades are based entirely on class participation, oral reports, written summaries and themes. If it becomes necessary, the teacher reserves the right to give translation quizzes and questions on the assigned text.

④その他

シラバスには“Advanced Russian I & II”はロシア語の受身的能力を、“Readings in Russian Literature I & II”はロシア語の能動的能力を養成するための科目であることが明記されているが、これまで日本では、少なくとも札幌大学ではロシア語の能動的な能力養成のための授業が少なかったことを痛感させられ、文学部ではない、外国語学部としての差異化について再考を促された次第である。現段階ではそうした授業展開を図れるのはロシア人教師だけであり（将来バイリンガルの日本人教師が輩出するにしても）、ロシア人教師の多用という形でしか解決できない問題なのであろうか？……

〈Reading in Russian Culture, History and Society I〉 3単位／75分／週2回

①クラスと受講者数

受講希望者少数のために開講されず。

②教科書

担当教員自選テキスト（自注付き）。原典となっているおもな著書は以下のもの。

1. С.Н. Сыров. *Страницы Истории.*
2. *Православная Церковь, Католицизм, Протестантизм, Современные Ереси и Секты в России.*
3. Э.Л. Флид. *Мусоргский.*
4. А.Г. Достоевская. *Воспоминания.*

また取り上げられているトピックは以下の通り。

1. Владимирो-Суздальское Княжество.
2. Нежность Камня (Боголюбиво и Покров на Нерли).
3. Лубок.
4. Духовная Агрессия против России.
5. Экуменизм (= Ecumenicalism).
6. Трагедия и Величие Художника (Мусоргского).
7. Воспоминания из жизни с Ф.М. Достоевским.
8. Киево-Печерская Лавра.
9. М.И. Глинка.

テキストはロシア文化の幅広い領域、つまり歴史、宗教、美術、音楽などの一般書あるいは専門書からなるべくバラエティーに富むように蒐集されている。ただし文学作品については、文学に特化された科目との競合を避けるためもあって、あまり選ばれないようである。

③シラバス

休講のためシラバスは入手できなかったが、ロシア語を正確に英語に直す、すなわち的確な翻訳を中心とする授業であるとのこと。文化的説明から語義説明、英語とロシア語の違いなど事細かに説明してゆくので、1回の授業（75分）で一般的なロシア語の書籍2ページ前後が標準的授業進度とのことである。

<Political Russian> 3単位/50分/週3回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者は17人。

②教科書

N. Simes, R.M. Robin. *Political Russian*. (ACTR: Knedall / Hunt)

これはACTRがACTFLガイドラインにそって「初級」「中級」の“*Russian Stage One*”、“*Russian Stage Two*”、“*Russian Stage Three*”に続いて製作した「中級」上から「上級」にかけての主題別教科書の1冊である。2部構

成の本書第1部(全7章、pp. 280)が、ACTFLガイドラインのいう「中級」の上から「上級」の下、第2部(全7章、pp. 220)が「上級」下から「上級」の上までをカバーしていると考えられる。4学年と大学院を対象とするこの科目で教材とされるのは、第2部だけである。しかし教科書編者によれば、第2部だけでも50分授業120回が見込まれているから、50分授業全45回(3回×15週)のこの科目では必然的に取捨選択やら、過大な家庭学習が要求されることになろう。

③シラバス

ここでも概要部だけを紹介しよう。

The goal of the course is to develop the student's functional proficiency in all language skills: reading, listening, speaking, and writing as well as to develop an understanding of Russian political culture. The topics covered will include, but will not be limited to official visits, international negotiations, economics, national security, arms control, etc. You will be exposed to authentic materials from the web and Russian media.

After completing the course a student who has successfully mastered all the materials should be able to attain the following proficiency in Russian:

- a) Speaking: advanced or advanced plus with regards to politics, national security, and economics.
- b) Reading: advanced or advanced plus with regards to politics, national security, and economics.
- c) Listening: advanced plus for the areas mentioned above.
- d) Writing: advanced for the same areas.
- e) Culture: knowledge of Russian political culture.

Students entering the course are expected to have the equivalent of 3 years of Russian.

The midterm exam is a 20 minute Russian Video, produced and directed

by YOU!

Grading will be based on class participation, homework and exams as follows:

- a) Class participation: 35%
- b) Homework and tests: 25%
- c) Midterm exam: 25%
- d) Final exam: 15%

(“advanced”と“advanced plus”はそれぞれ「上級」下、「上級」上と翻訳した ACTFL ガイドラインのレベル表示)

④その他

この科目は“Business Russian”と隔年開講になっていて、同一教師が担当している。“Business Russian”の教科書もまた、ACTR 企画の上級者用主題別教科書シリーズの1冊である。

N. Milman. *Business Russian. A Cultural Approach.* (Kendall / Hunt / pp. 201)

父親がロシア人というフランスからの留学生は、教科書は高いし重いし厚いし、文法はやかましいし、家庭学習量は多すぎるし……とこぼしていたが、確かに授業毎のシラバスを見てみると、教科書の予習だけでも大変なのに、そのうえ教科書とは違った課題まで要求されており、少なくとも学部生には過酷な科目だと思われる。

〈Russian for Graduate Students I〉 3単位/50分/週3回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者7人、うち4人はロシア語初学者。

②教科書

1. P.M. Arant. *Russian for Reading.* (Slavica Publishers, Inc.)

いわば読めるようになることを主眼においた文法中心の速習用教科書である。50分授業が週に3回のこの科目では、全20課のこの教科書を「I」で10

課、「II」で10課こなすようになってきている。「聞く・話す」の訓練は皆無に近いので、その面をも考慮した参考書、辞書やロシア人アドバイザーなどについては、授業進度に合わせてEメールを通じて情報を流すとのことであった。最初の1ヶ月ぐらいの間に受け取ったEメールによれば、“Elementary Russian I, II”で現在使用し、“Intermediate Russian I, II”でかつて使用していたマルチ的教科書“*Russian Stage One*”と“*Russian Stage Two*”を初め、総合的な文法参考書“*Russian Review Grammar*” (Slavica) や読本“*Russian for Expository Prose*” (Slavica) を勧めているようである。

③シラバス

何週目の何曜日にどの課を進むかという簡単な進度表（そこには3課毎のテスト予定も繰り込まれている）が渡されただけである。それによればだいたい授業4回で1課の進度のようである。また評価基準はやはり出席が最重視で40%、あとは3回のテストがそれぞれ20%で、その合計によって判定されるらしきことが口頭で説明されていた。いずれ細かいことはEメールを通して必要が生じ次第連絡するとのことであった。

4年次あるいは大学院でロシア語が必要になった学生のための科目らしく、1年間で文法だけに限って「中級」まで終えることを目的としているようである。

④その他

すべての授業の担当教官は研究室の所在、研究室在室時間、研究室の電話番号とEメール住所のみならず、自宅の電話番号とEメール住所をシラバスとともに明らかにし、学生からのアクセスにいつでも対応できる態勢を取っていることをここに付記しておこう。

【大学院】

<Russian for Graduate Students I> 3単位/50分/週3回

①クラスと受講者数：4学年対象の同名科目の項参照。

②教科書：4学年対象の同名科目の項参照

③シラバス：4 学年対象の同名科目の項参照。

〈Proseminar in Russian Literature〉 3 単位／75 分／週 2 回

①クラスと受講者数

1 クラスで受講者は 3 人。

②教科書

1. Warren & Wellek. *Theory of Literature*.
2. David Lodge. *Modern Criticism and Theory. A reader*.
3. Matejka & Pomorska. *Readings in Russian Poetics*.
4. Iurii Lotman. (a) *Analysis of the Poetic Text*. (b) *Universe of the Mind*.
5. Bakhtin. *Dialogic Imagination*.
6. Morson & Emerson. *M. Bakhtin. Creation of a Prosaics*.
7. Maguire. *Gogol from the Twentieth Century*.
8. Heldt. *Terrible Perfection*.
9. Costlow, Sandler, Vowles. *Sexuality and the body in Russian Literature*.
10. L. Ginzburg. *On psychological Prose*.

この他にも様々な雑誌論文がリストアップされているが、ここでは割愛する。修士課程に進学希望の学生や修士論文を書こうとする学生を対象とした科目で、文学理論や文学研究史が講義の中心をなしている。

③シラバス

各週毎に講読予定の書籍か書籍の章、あるいは雑誌論文が割り当てられている。また評価基準となる 3 回のレポートのテーマと提出日、議論のテーマと発表日なども割り当てられている。

④その他

興味深いのは、図書館における文献渉猟方法までもが授業の一環になっていることである。

<18th Century Russian Literature> 3 単位／75 分／週 2 回

①クラスと受講者数

1 クラスで受講者は 3 人。

②教科書

<A> Комедия:

1. Д.И. Фонвизин. «Бригадир», «Недоросль»
2. В.В. Капнист. «Ябеда»

 Трагедия:

1. А.П. Сумароков. «Хорев», «Дмитрий Самозванец»
2. Я.Б. Княжнин. «Вадим Новгородский»
3. В.А. Озеров. «Дмитрий Донской»

<C> Сатира в формальном стихе (Formal Verse Satire):

1. А.Д. Кантемир. «Сатира I»

<D> Ода:

1. В.К. Тредяковский. «Ода торжественная о сдаче города Гданска»
2. М.В. Ломоносов. «Ода на взятие Хотина»

<E> Поэма:

1. В.И. Майков. «Елисей, или Раздраженный Вакх»
2. И.Ф. Богданов. «Душенька»
3. М.М. Херосков. «Россияда»

さらにデルジャーヴィンの叙情詩も数編列挙されているし、また重要な参考文献の紹介もされている。

③シラバス

授業毎に次回まで読んでおくべき作品および参考文献が指示されていた。なお 1～2 回目の授業は 18 世紀古典主義の特質についての講義であり、3 回目以降は古典主義ジャンルそれぞれの代表的作品についての講義であった。

④その他

受講生はすべて大学院生であるが、毎週講義予習のために 50～200 枚ほどの

作品あるいは参考文献をコピーし、読まなければならず（講義は当然ながら、作品あるいは参考文献を読み、かつ知っているという前提で進められるので）、19世紀のロシア語ならいざ知らず、18世紀のロシア語、それも技巧を凝らした韻文ともなると大変な作業のようであった。とはいえ受講生3人中2人までは両親がロシア人であり、読むこと自体にはそれほど苦労している様子はないようであったが……

〈19th Century Russian Literature I〉 3単位／75分／週2回

①クラスと受講者数

1クラスで受講者は5人。

②教科書

〈A〉 Narrative Prose:

1. Н.М. Карамзин.

«Бедная Лиза», «Наталья, боярская дочь», «Моя исповедь», «Чувствительный и холодный», «Рыцарь нашего времени», «Письма русского путешественника».

2. А.А. Бестужев-Марлинский.

«Роман и Ольга», «Вечер на бивуаке», «Второй вечер на бивуаке», «Испытание», «Страшное гадание».

3. А.С. Пушкин.

«Повести покойного Ивана Петровича Белкина», «Пиковая дама», «Капитанская дочь», «Дубровский».

4. Н.В. Гоголь.

«Мёрвый души», «Петербургские повести», «Вечера на хуторе близ Диканьки».

5. В.Ф. Одоевский.

«Русские ночи», «Княжна Мими», «Княжна Зизи», «Саламандра», «4338 год»

6. М.Ю. Лермонтов.

«Герой нашего времени».

(Физиологический очерк)

7. Д.В. Григорович. «Петербургские шарманщики».

8. М.Ю. Лермонтов. «Кавказец».

9. И.С. Тургенев. «Хорь и Калиныч».

10. И.И. Панаев. «Петербургский фельетонист».

 Narrative Poetry:

(a) Ballad

1. В.А. Жуковский. «Людмира. Русская баллада, подражание Биргеровой Леоноре», «Светлана».

2. П.А. Катенин. «Ольга», «Убийца».

(Н.И. Мордовченко. «Русская критика первой четверти 19 века», 1959, сс. 146-157, 166-168)

3. А.С. Пушкин. «Жених», «Утопленник», «Будрыс и его сыновья» (Томас Венцлова. «Неустойчивое равновесие»), «Воевода».

(М. Новикова. «Испытание», Вопросы литературы, №10, 1983)

(b) Narrative poems:

1. А.С. Пушкин. «Кавказский пленник», «Цыганы», «Полтава», «Медный всадник», «Онегин».

2. М.Ю. Лермонтов. «Демон».

(c) Drama:

1. А.С. Грибоедов. «Горе от ума».

2. А.С. Пушкин. «Борис Годунов», «Маленькие трагедии»

3. Н.В. Гоголь. «Ревизор».

4. М.Ю. Лермонтов. «Маскарад».

5. Д.Т. Ленский. «Простушка и воспитанная» (водевиль).

この他、膨大な参考文献のリストが渡されている。

③シラバス

授業毎に次回の講義要項が口頭で述べられ、読んでおくべき作品と参考文献が指示されていた。18世紀ロシア文学同様、こちらも毎回講義予習のために図書館でかなりの量のコピーをとり、しかも読まなくてはならない。秋期 Semester ではカラムジンに始まって、レールモントフの『現代の英雄』までが講義された。春期 Semester では“19th Century Russian Literature II”が開講され、トゥルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ、ネクラソフ、チュッチェフ、フェート、チェーホフなどが講義対象となるはずである。

④その他

「18世紀ロシア文学」と「19世紀ロシア文学」の2科目だけでも、真面目に講義の予習をしようとするればかなりのエネルギーが必要と思われる。それにしても大学院の文学の授業には、クロス・リーディングのような授業がないのであろうかと思ったことであった。

〈Tolstoi and Dostoevsky〉 3単位／75分／週2回

- ①クラスと受講者数：3学年対象の同名科目の項参照。
- ②教科書：3学年対象の同名科目の項参照。
- ③シラバス：3学年対象の同名科目の項参照。

〈Russian Drama〉 3単位／75分／週2回

①クラスと受講者数

受講希望者なく、開講されず。

②教科書

1. Segel. *Literature of 18th Century Russian, I & II.*
2. Senelick. *Russian Satiric Comedy.*
3. Grrene & Katsell. *Unknown Russian Drama.*
4. Noyes. *Masterpieces.*
5. Pachmus. *Women Writers in Russian Modernism.*

6. Reeve. *20th Century Russian Drama*.
7. Greene. *Russian Symbolist Theater*.
8. Reeve. *Contemporary Russian Drama*.
9. Lyons. *Six Soviet Plays*.
10. *Classic Soviet Plays*.
11. *Five of the Best Soviet Plays*.

③ シラバス

講義で取り上げられる予定の作家と作品は以下の通りである。

1. Sumarokov. *Domitrii the Imposter*.
2. Fonvizin. (a) *The Brigadier*. (b) *The Minor*.
3. Kniazhnin. *Misfortune from a Carriage*.
4. Pushkin. (a) *Boris Godunov*. (b) *Little Tragedies*.
5. Griboedov. *The Trouble with Reason*.
6. Gogol. *Inspector General*.
7. Turgenev. (a) *A Month in the Country*. (b) *The Weakest Link*.
8. Ostrovskii. (a) *The Poor Bride*. (b) *The Storm*.
9. L. Tolstoi. *Power of Darkness*.
10. A.K. Tolstoi. *Death of Ivan the Terrible*.
11. Chekhov. (a) *Platonov*. (b) *The Bear*. (c) *The Seagull*. (d) *Uncle Vanya*.
(e) *The Three Sisters*. (f) *The Cherry Orchard*.
12. Gorkii. *The Lower Depths*.
13. Blok. *The Puppet Booth*.
14. Kuzmin. *Venetian Madcaps*.
15. Sologub. *Vanka the Steward*.
16. Evreinov. (a) *The Fourth Wall*. (b) *Theater of the Soul*. (c) *Merry Death*.
17. Maiakovskii. (a) *Vladimir Mayakovsky: Tragedy*. (b) *The Bedbug*.
18. Bulgakov. (a) *Zoya's Apartment*. (b) *Crimson Island*. (c) *Flight*. (d)

Last Days.

19. Pogodin. *Kremlin Chimes.*

20. Vishnevskii. *Optimistic Tragedy.*

21. Shvarts. *The Dragon.*

22. Some Plays by Vampilov, Shatrov and Petrushevskaja.

この他にも、時間的余裕がある場合のためにという留保付きで、数人の作家の名前が挙げられているが、ここでは割愛する。これらの劇は原則的に③教科書の項で挙げた書籍のいずれかに英語翻訳テキストが載っているものを選んであるわけだが、それでもロシア語・文学プロパーの学生には、当然とはいえ、原語で作品を読むようにという指示が出されている。

評価は8～10枚程度のレポート3回と（18、19、20世紀の劇からそれぞれ1つ選ぶ）、レポートの下敷きとしてのクラスにおけるプレゼンテーションおよび議論参加によって判断されることになっている。割合は各レポートが25%、プレゼンテーションと議論参加が25%となっている。

④その他

この科目といい、「18～19世紀ロシア文学」といい、指定される書籍と取り上げる作品が多いのには驚かされるが、そのほとんどが一般的に入手不可能であって、一緒に指示されている図書館の登録番号を頼りに、受講生自身がコピーするようになっているのにはさらに驚かされた。大学院の授業なので、図書館で文献を渉猟し、指定された作品や参考書以外のものを利用した場合には評価も上がれば、また最終的には自分のためにもなるということであろう。

〈Pushkin to Dostoevsky〉 3単位／75分／週2回

- ①クラスと受講者数：2学年対象の同名科目の項参照
- ②教科書：2学年対象の同名科目の項参照
- ③シラバス：2学年対象の同名科目の項参照

〈Political Russian〉 3 単位 / 50 分 / 週 3 回

- ①クラスと受講者数：4 学年対象の同名科目の項参照
- ②教科書：4 学年対象の同名科目の項参照
- ③シラバス：4 学年対象の同名科目の項参照

3. 結語

特筆すべき結語が醸成されたわけではない。ロシア語・文学系だけに関していえば、カリキュラムでも教授法でも取り立てて目新しい何かがあるわけではないからである。それでも、何度も繰り返すようだが、知識を与えるというインプット型の授業と知識を活用させるというアウトプット型の授業とがうまく具合に拮抗している点は、大いに学ぶべきであろう。ロシア人があるいはバイリンガルのロシア語を操る人間がうようよしているアメリカと、ロシアに地理的に近いとはいえ、ロシア人がやっと珍しくなくなった日本の片田舎札幌とは条件が違うにしても、どうにかしてアウトプット型の授業を増やす努力をすることが、文学部ではない札幌大学ロシア語学科の存在意義をより確かにしてくれると思われるからである。

またインディアナ大学と札幌大学では大学の大きさ、学部学科や研究所の多様性に大きな違いがあるとはいえ、様々な形でロシアを紹介するイベントの開催にも学ぶべき点はあるかも知れない。専門的および一般的な講演会、コンサートや詩の朗読会、ロシア語談話室などが、ここインディアナ大学ではじつに頻繁に催されているからである。もっともアメリカでもロシア語学習者の数はどんどん減少しており、そうしたイベントにいかなる効果がありやと問われれば、返答はいささか歯切れの悪いものとならざるをえないのだが。それでも札幌大学ロシア語学科は、少なくともロシア語・文学教育が行われている北海道の他大学と共同しながら、ロシア世界に対する興味を大学内部から地元豊平区へ、豊平区から札幌へ、札幌から北海道へ、北海道から日本へと波及させてゆく作業を地道に続けてゆくしかないであろう。宣伝・啓蒙活動はもちろん実

質を伴ったものでなければなるまい。それはつまり、学外的には宣伝・啓蒙に務める一方、学内的にはアウトプット型授業のより積極的な導入を図りつつ、各教員の専門分野での研究実績もそれなりに積み上げてゆくということに他ならない。

(本論文は 1999 年度海外研修の成果の一部である)